

TSUCHIDA HOSPITAL NEWS 輪

みんなの輪と和を



撮影者 佐藤 富枝さま(職員家族)

第36号 平成29年4月15日発行/発行元 医療法人社団 土田病院/編集 土田病院 広報委員会

循環器内科外来のご案内

「華岡青洲記念心臓血管クリニック」より
下記曜日に循環器内科専門医にお越しいただいております。
予約無しでの外来受診も可能となっておりますので、お気軽にお問い合わせください。

●月曜日:午後2時~5時 ●金曜日:午前9時~12時

各曜日担当医等の詳細については
代表電話011-531-7013までお問い合わせください。

地域医療連携室

相談受付時間:午前9時~午後5時まで(月~金)

専任の医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)がおり、入院前および入院中における様々な調整や心配事などのご相談に応じております。お気軽にご来室ください。

地域連携

他の医療機関ならびに区役所、各関係施設などとの連携窓口となり、入院のご相談から様々な情報連絡、各種手続きなどをおこないます。

医療相談

経済的な問題から各種制度説明、介護保険のサービス紹介や福祉施設紹介など、お悩みになっている問題に対して、幅広くご相談をお受けいたします。また、お電話でのご相談でも構いません。

外来診療時間	[平日]午前9時~12時・午後1時~6時						
	[土曜]午前9時~12時30分(整形外科は午前9時~12時です)						
外来診療		月	火	水	木	金	土
	午前	院長	院長	山本	院長	院長	交代制
		北川	佐々木	豊田	佐々木	豊田	整形外科 専門外来
	午後	山本	中村	消化器内科 専門外来	中村	大野	循環器内科 専門外来
佐々木		大野	大野	山本	山本		
	中村	豊田	佐々木	北川	中村		
		循環器内科 専門外来	整形外科 専門外来		整形外科 専門外来		

※診療時間午後2時~5時

日曜・祝日は
休診いたします。

当院理念

地域の安心を第一に考えた
病院づくりを目指しています。

1. 地域のみならず信頼され、地域社会に貢献できる医療機関を目指します。
2. 救急医療から慢性期医療に至るまで、質の良い専門医療を実践します。
3. 患者さんの立場に立った、優しい、快適な環境を提供します。

Voice

「伝える」のではなく「伝わる」仕事にこそ価値がある。

昨年12月の札幌は記録的な大雪に見舞われ、厳しい冬を予感させましたが、いつしか風が温もり、緑の芽吹きに嬉しさを感じる季節になりました。これからの季節は存分に太陽の恵みを楽しみたいと思います。

さて、4月からは新年度が始まります。入社式や入学式にワクワクされる季節ですね。ところが、とある年の4月に気象協会から「夫婦喧嘩注意報」なる穏やかではない注意報が発令されたことをご存じでしょうか。もちろん「夫婦喧嘩注意報」という注意報が実在している訳ではありません。当時の実際の気象協会の発表は次のような内容でした。「日本気象協会北海道支社は20日、21日午前から

午後にかけての短時間に気温が急上昇し、体調不良や気分が落ち着かないなどの「気象病」が起こる可能性があるとして、「車の運転や、夫婦げんかに注意を」と呼びかける異例の気象情報を出した。(中略)気象病は、気象の変化によって発病する現象を差し、「雨の日には神経痛がひどくなる」といった症状などが含まれる。同支社気象情報課は「急に環境が変化すると、人は体がついていけなくなる。フェーン現象の時、敏感な人はいらいらしがちになる」と説明している。21日夜には気温が下がるという。」通常の予報通り「急激な気温変化による体調不良にお気を付けください。」という表現では聞き流してしま

いがちです。しかし、「急激な気温変化による夫婦喧嘩にお気を付けください。」と表現されると注意を惹かれて記憶に刻まれるものです。急激な気温の変化に気をつけてほしいという想いを伝えるための気象協会が考えたユーモアだったわけです。

「伝える」と「伝わる」は似て非なるものということなのですね。4月という節目を迎え、「伝える」のではなく「伝わる」仕事にこそ価値があるという気持ちに立ち、新年度に向けて想いを新たにしているところでございます。

経営管理部 部長
安達 俊一



医療法人社団
土田病院
TSUCHIDA HOSPITAL
札幌市1次・2次救急指定病院
TEL:011-531-7013
〒064-0921 札幌市中央区南21条西9丁目2-11
E-mail / info@tsuchida.or.jp
URL / http://www.tsuchida.or.jp

診療科目

外科・内科・消化器外科・消化器内科・呼吸器内科・救急科・整形外科・肛門外科・内分泌外科・循環器内科・リハビリテーション科・放射線科

病床数

一般病床/42床、医療療養病床/60床、地域包括ケア病床/32床



■市電/「東屯田通」下車 徒歩1分
■定鉄バス/「南21条西11丁目」下車 徒歩5分
■車 / JR「札幌駅」から約30分

職場体験学習

(札幌市立啓明中学校)

当院では、小学校、中学校の職場体験学習を毎年受けています。今回は札幌市立啓明中学校の皆さんの感想をご紹介します。

職場体験を終えて最も印象に残っていること

Q1

2日目に行われた手術体験です。鶏肉を使い行い、手の洗い方から切る、縫う作業まで細かくすみずみまで体験することができたので、とても勉強になりました。

一番印象に残っているのは、道具を使い体験させていただいた採血です。自分の指で皮膚をさわっても、血管とそれ以外の感触の違いが分らず、病院の注射を瞬殺で終わらせる看護師さんはすごいと思いました。

最も印象に残っていることは、手術体験です。具体的には手洗い、手術着の着用電気メスでの鳥の切開縫合です。手洗い後に手を上げているということが、本当なので驚きました。電気メスは切開と止血を使い分けることができるのはとても便利だと思いました。縫合にははさみの持ち方が決まっていますが、とても貴重な体験になりました。

この職場体験で最も印象に残っているのはリハビリ体験です。なぜなら、実際にリハビリテーション室に行き、器具などを見て、リハビリとは、何をするのかがとても詳しくわかったからです。何種類もの器具を使わせてもらい、その中でも特に、腰を固定して伸ばす器具は印象が深かったです。

今回の「職場体験」学習を通して「働く」ことについて考えたこと

Q2

「働く」ということは、一人だけではできないものではなく、周りの人々の助けや支えがあってこそできることだということを体験させていただきました。

常に立ちながら仕事をする薬剤科の先生や、病気がどこにもひそんでいないかを確認するためにCTの写真を何十枚も見ると放射線科の先生の働く姿を見て、今までぼんやりと「仕事は大変」と思っていたが、大変な事の具体的な中身がわかり、前よりも仕事は大変なんだという思いが強くなりました。

「働く」ということは、自分の仕事をやりきることだと思いました。みなさんが自分の仕事を責任を持って行っていたからです。

今回の職場体験で実際に働いている所を見学してみて、その職業はどのような仕事なのか、どのような苦勞を伴うのか、ということが本当によく分かりました。また、仕事を見て、医師、看護師として働く上で人を助けることに魅力があると感じました。自分はこの仕事を指す上で、常に学ぶことを忘れないようにしたいと思います。

リハビリテーション科

リハビリテーションとは、病気やケガで身体の機能に障害をもち、生活に支障をきたした患者さんに対して、運動療法や物理療法（電気治療や温熱療法など）で身体を治していく治療法です。

当院では、リハビリテーション部門の充実に力を入れております。現在スタッフは理学療法士8名、作業療法士3名、言語聴覚士2名、鍼灸マッサージ師1名、柔道整復師1名の総勢15名（H29.4.1現在）で運営しております。



当院でのリハビリテーションについて

運動療法では、身体の痛みや動きづらさに対するストレッチ・マッサージや、筋力低下に対する筋力トレーニングの指導、また、基本動作（立つ、座る、歩くなど）や生活動作（トイレでの動き、階段昇降）杖や車椅子などの移動補助具の使用の指導を行います。

誤嚥性肺炎への対応

特に、高齢者に多い誤嚥性肺炎（唾液や食物が気管に侵入し、肺炎を発症する）への対応も必要となり、肺に溜まった痰を排出する治療なども行います。また、飲み込みに障害をもつ患者さんに対しては、言語聴覚士が中心となり、飲み込みの練習をしたり、安全に食べられる食形態の提案なども行っております。



外来リハビリテーション

入院している患者さんのみならず、外来で通っている患者さんに対しても治療を行っております。鍼灸・マッサージ師、柔道整復師が中心となり、マッサージ・ストレッチや物理療法で身体の痛みを緩和します。

